

日本ユーラシア協会とは
旧ソ連邦に住む諸国民
との相互理解と友好を
進める（旧）日ソ協会
の後身組織



日本とユーラシア
Япония и Евразия
愛知版 NO.680
HP: <https://eurasia-aichi.beet.jp>

ニュース、投稿は下記へ
〒461-0004
名古屋市東区葵1-22-26
日本ユーラシア協会愛知県連合会
電話 052-508-4368
Mail: eurasia_aichi@yahoo.co.jp

2026あいち・平和のための戦争展ご案内

理事長代行・平和問題担当 中山 顕

【展 示】平和を願う「ロシア抵抗の顔」

場 所：市民ギャラリー矢田（地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車1番出口）

日 時：8月13日（木）～16日（日）10：00～17：00

入場料：500円

【講演会】ヒトロワ・ユーリア（平和を願うロシア語の声代表）

場 所：東文化小劇場（地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車1番出口）

日 時：8月15日（土）10：30～（開場10：15）

参加費：500円

世界各地で開催されている展示プロジェクトFaces of Russian resistance（ロシア抵抗の顔）。日本では在日ロシア語話者による任意団体「平和を願うロシア語の声」が昨年11月に東京で開催し、成功を収めました。今回、「2026あいち・平和のための戦争展」の特別展示として愛知県連がこの展示プロジェクトを招聘しました。日本では二度目の開催となります。

ウクライナ侵攻を批判してロシア国内で投獄された地方議員やジャーナリスト、反戦を訴えて亡命を余儀なくされたアーティストなどを紹介します。

8月15日には「平和を願うロシア語の声」の代表ヒトロワ・ユーリアさんによる講演会（日本語）を開催し、この展示プロジェクトを広めていく意義やロシア国内における人権抑圧の状況について訴えます。講演終了後は、展示スペースでヒトロワさん他メンバーの方々との交流も行われます。

2022年2月にプーチン政権が始めた戦争は、人々の命と生活を奪い、国土を破壊しただけでなく、市民社会にとっても戦争反対の声を圧殺し、民主主義を窒息させる暴力を世界に知らしめました。

今回の特別展示と講演を通して、人権と民主主義の視点から反戦平和の課題を考え、平和を願う市民の連帯の声を広げていけたらよいと思っています。

－ カンパのお願い －

特別展示と講演会には、展示パネルの輸送費や宣伝広告費、ゲスト招聘のために多くの費用を要しております。この企画にご賛同いただける方は、是非、カンパの協力をお願いします。

「ロシア抵抗の顔」カンパは愛知県連事務所にて受け付けております。

同封の、青い郵便払込用紙（日ソ協会扱い）をご利用ください。



NHKラジオまいにちロシア語「音楽のロシア語、ロシア語の音楽」

8月放送についてのお知らせ 文化交流担当理事 栗原 洋子

NHK FMで、月曜～水曜午前2:30～2:45に放送されている「まいにちロシア語」の初級編では9月まで「音楽のロシア語、ロシア語の音楽」が学びのテーマです。ロシアの作曲家と音楽をテーマにした会話により、初級文法とやさしい表現を学んでいくシリーズで、チャイコフスキーをはじめ、毎月ひとりずつロシアの作曲家が取り上げられています。またロシアとロシア語に関わりを持ち世界的に活躍されている音楽家、芸術家へのインタビューもあります。

8月の作曲家はセルゲイ・プロコフィエフ。ゲストは名古屋の皆さんにもおなじみのピアニスト田中正也氏です。田中さんはライフワークとして「プロコフィエフピアノ曲全曲演奏シリーズ」に取り組んでいることで国際的に知られています。プロコフィエフとロシア語について

はついしゃべりすぎてしまうほどでした、と5月のコンサートの時にお話しされていました。本放送を聴くのが楽しみです。

放送は深夜ですが、NHKネットラジオの「らじる★らじる」オンデマンド放送で、いつでも聴取可能です。皆様にぜひお聞きいただきたいと思います。

また、田中正也氏の大好評コンサートシリーズ「魔法のピアノ」第17弾が宗次ホールで10月25日（日）14:00からあります。

プロコフィエフの「戦争ソナタ」もプログラムに入っています。こちらにもぜひ足をお運びください。チケットは愛知県連事務局で取り扱いがありますので、購入される方は事務局までお声がけください。



新栄の窓から 事務所員 本多 まゆみ

A》日本ユーラシア協会愛知県連事務所の書棚にある、3点をおすすめいたします。

① ロシア語アルファベット練習帳 = 150円。B5版11ページ。県連独自製作。

② ロシア語文法表 = 受講生は300円、定価は350円。

東京ロシア語学院教科書委員会の編集。ロシア語学習には必携の書。

③ 日本国憲法第9条を世界に普及しよう。パンフレット = 100円。

日本ユーラシア協会制作発行、27か国語で日本国憲法第9条1項、2項を表しています。

お気軽に事務所でお手にして、お求めください。

B》日本ユーラシア協会会費を納入してください。今回、一部の個人会員へは「郵便払込取扱票」を同封しました。通信欄の会費年月欄には、納めていただきたい年月からを記入しています。

26年1月とあれば、2026年1月分からです。

それぞれのご都合よき月分までを納入してください。

B》退会の場合は、必ず事務所へ連絡ください。

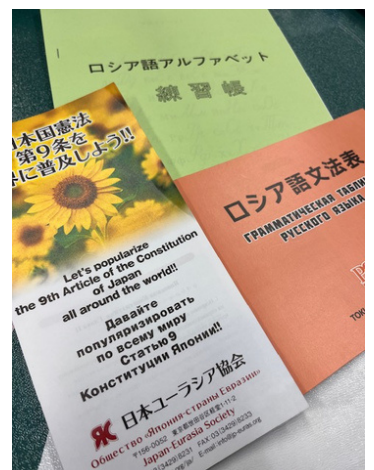
その場合は退会月までの会費を納めてください。

「》未使用の日本郵便の切手や書き損じハガキをご寄付ください。

機関紙発送に使わせていただきます。

不明な点は事務所へ連絡ください。

水曜、木曜、土曜日には事務所は開いています。



第34回ロシア語特別講座

「生のロシア語に“触れて”みよう」開催のお知らせ

ロシア語講師 服部 和

9月13日(日)13時から愛知民主会館で34回ロシア語特別講座が開催されます。

今回はウズベキスタン出身のアリョーナ・チャガイ先生に、旧ソ連の朝鮮系住民（コリョサラム）の歴史と文化、そしてその歩みについて、ご自身の経験も交えながらお話しいたします。なぜ彼らは中央アジアの国々に住んでいるのでしょうか？現在はどんな暮らしをしているのでしょうか？ロシア語による講演で通訳はありません。前もってロシア語のテキストと和訳はお渡ししますが、当日はロシア語を聞くことに集中していただきます。

この後はレベル別に三つのグループに分かれてロシア語のテキストの朗読の練習です。普段の授業でなかなかできない細かい発音の指導やイントネーションなどに焦点を合わせてじっくりとロシア語の文を読みます。

最後は全員でのおしゃべりタイムです。普段は会うことのない、ご自分のクラス以外の受講生や講師の先生たちとロシア語の勉強法や日頃疑問に思っていること、お気に入りのロシアのサイトなどなんでもありでおしゃべりする時間です。この講座は受講生以外の方の参加も大歓迎です。様々な方が参加されますので、これまでに独学での勉強法、旅行の体験談、ロシア語との出会いなど面白いお話を聞くことができます。ぜひお出かけください。

■ご参加申し込みは、

Tel : 052-508-4368（日本ユーラシア協会愛知県連事務所）

水・木・土曜日 10:00～17:00

mail : kokoshka2011@gmail.com

上記電話あるいはメールにて、氏名、フリガナ、住所、電話番号、朗読テキストのレベル（初級、中級、上級）、メールアドレスをお知らせください。

■参加費：1,000円（会員と受講生は500円）

■申込み期限：9月9日(水)

雑談ユーラシア あれこれ（第4回）

名古屋経済大学 市橋 克哉

Мой краш - София Ротару, но ...

（わたしの「推し」- ソフィア・ロタル、しかし・・・）

モスクワで生活していたころ、ラジオ局「маяк（灯台）」から、軽快なテンポ、明るいいリズム、そして、無意識にからだが動いてみんなで盛り上がる歌が流れていました。それは、80年代、立て続けにヒットを出していたソフィア・ロタル（1947年生まれ）の歌でした。《Только этого мало（それだけじゃ足りない）》、《Было,но прошло（そうだったが、過ぎ去った）》、《Золотое сердце（黄金の心）》といった歌です。同じころ、アーラ・プガチョワ（Алла Пугачева）が、「物語」を静かに語るように歌っていましたが（女優を愛したピロスマニの悲恋を語り歌う「百万本のばら」は日本でも流行りました）、彼女の歌は、それとはまったく異なるものでした。みなさんは、たぶんご存じないかと思うので、彼女の歌をYouTubeでお楽しみください（新年のお休みに、スタジオのみんなが歌と踊りとお酒で盛り上がるロシアらしい歌番組で、彼女は歌っています）。当時、毎日がモノ不足（дефицит）と行列（очередь）で疲れていたわたしは、彼女の明るい歌から、たくさんの元気をもらったことを思い出します。

YouTube

София Ротару - Этого мало 08 01 2011 Субботний вечер



ソフィア・ロタルは、1947年、ルーマニア人、ウクライナ（ルテニア）人、ユダヤ人、ドイツ人、ポーランド人、ハンガリー人・・・などなどが共存する多民族地域である西ウクライナのブコヴィナ（Буковина）の農家に生まれました。彼女は、民族的にはルーマニア系（モルドバ系）で（ロタルもルーマニア（モルドバ）の姓）、家庭内ではルーマニア語（モルドバ語）で会話する家族の子どもです。彼女の故郷がブコヴィナと知って「えっ、ブコヴィナ！」と思わず声が出るとともに、いろいろなことを考えさせられました。

まず、ブコヴィナという地方は、オスマン・トルコ帝国→ロシア帝国→オーストリア・ハンガリー帝国→ルーマニア王国→ソビエト連邦→ウクライナと、この地域の近現代史をみると、目まぐるしくその属する国が次々と代わった多民族社会です。島国の固定した「歴史観」と「社会観」（いつの時代も日本は日本国であり、日本民族「中心」の社会だという「常識？！」）では想像できない複雑な歴史を背負った社会で、彼女は生まれ育っています。

そして、ブコヴィナというと、わたしたちは（すみません、ここからわたしの専門（法学）の話です）、ブコヴィナの首都チェルノビッツ（Czernowitz/Черновцы、ソフィア・ロタルの故郷までわずか30キロの街）で生まれ育ち、チェルノビッツ大学で教えた法社会学の創始者オイゲン・エールリヒ（Eugen Ehrlich 1862-1922）を思い出します。

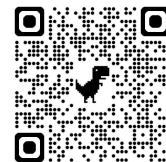
【次頁へ続く】

ブコヴィナの多民族社会を観察したエールリヒは、ブコヴィナでは、諸民族はオーストリアの法律を使わず、その民族の「社会」がそれぞれ有する「慣習法」を使っていることに注目しました（ブコヴィナは「法の実験室」）。そして、国家の法律よりも、社会のなかにある「法」（生ける法（lebendes Recht））の方が重要な場合がある（「法の発展の重心は、国家活動のなかではなく、社会そのもののなかにある」は、かれの有名な言葉です）ことを理論化し、法解釈学ではなく、「社会現象」としても法を研究する法社会学を提唱しました。

さらに、軽快なテンポ、明るいいリズム、そして、無意識にからだが動いて盛り上がるソフィア・ロタルの歌は、ブコヴィナで、歌ったり踊ったりされてきたウクライナ民謡やルーマニア（モルドバ）民謡を基礎にした「エスノポップ」だといわれています。したがって、エールリヒが、ブコヴィナという多民族社会の「法」を法理論に昇華したように、ソフィア・ロタルは、ブコヴィナの諸民族の民謡を洗練された現代のポップ・ミュージックへと進化させたのでした。そんなウクライナのカルパチア民謡を現代のポップ・ミュージックに進化させた彼女の代表曲《Червона рута（赤いルタの花）》を聞いてみてください。これは、ウクライナ独立20周年記念日（2011年）にキエフ・独立広場（майдан / 今は戦死者の遺影と国旗が林立している広場になってしまいました）で行われた彼女のコンサートです。もちろん、彼女はウクライナ語で歌っています。ただ、途中の呼びかけは、Дякую（ウクライナ語のありがとう）を除き、Добрий вечер, Киев（こんばんは、キエフ）、поёте（歌って）、С праздником（祝日おめでとう）など、ロシア語で聴衆に語りかけており、戦争で消えたロシア語とウクライナ語の在りし日の「共存」が、そこにはみられます。

You Tube

Sofia Rotaru -Софія Ротару "Червона рута"; new 2011



ソビエト時代・ソ連崩壊後の時代を通して、長年人気を博して活躍してきたソフィア・ロタルですが、2022年に始まった戦争によって、彼女の歌手活動は暗転しました。ロシアの侵攻直後、Я в Києві! Молюсь за наших захисників і мир в Україні（わたしはキエフにいます！ウクライナで、わたしたちの防人と平和のために祈ります / на Украинеとは書いていません）という戦争を批判する短い記事を、彼女は自らのInstagramに掲載しました。そして、彼女は、その後、今日まですべての歌手活動をやめて、キエフ近郊の別荘で隠遁生活を送っているといわれています。あのアップ・テンポ、明るいいリズム、そして、自然とからだ動き、みんなで盛り上がる歌は歌えないという、彼女の気持ちは理解できます。わたしは、今はただ平和が戻り、再びソフィア・ロタルの元気で力強い歌声が戻ってくることを願うばかりです。

ロシア語講座受講生交流会の報告

会話Dクラス受講生 川北 厳己

6月21日にロシア語講座受講生交流会を開催しました。この日は5名が参加、全員が会話クラスの受講生または元受講生でした。

最初に参加者全員で自己紹介をし、それぞれどのようなことに関心があるのかを確認した後、意見交換を行いました。関心が多く集まっていたのは「学習のきっかけと目的、そしてどのように学習のモチベーションを保っているのか」ということでした。「とにかくロシアが好き。ロシア訪問時に現地の方々にとても親切にしてもらった。何度もロシアに行ったけれど、一番行きたい場所はまだ行かずにとってある。」「今はウクライナ避難民の支援ボランティアでロシア語を使っている。ロシア語はウクライナ語を勉強することにも役立つ。終戦後はロシア側の帰還兵の心のケアにも貢献したい。」「通訳や翻訳アプリの力を借りて話すこともできるけれど、

相手の母語で話すと相手の表情が明らかに変わる。その表情を見たくて今も学習を続けている。」など、お互いの思いに興味深く耳を傾けました。

その他、ロシア語圏での体験や学習方法、Я н д е к с（ロシアの検索エンジン）の便利な使い方等、様々な話題で盛り上がり2時間半の交流会が終わりました。

このように学習者同士でモチベーションを高めあうためにも、より多くの方に参加いただける形で交流会を再度企画したいと考えております。私は土曜日の15時頃にロシア語教室におります。良いアイデアがありましたら是非お声がけください。

最後に当日挙げた勉強法を紹介して報告を締めくくりたいと思います。皆さんの学習の参考になれば幸いです。

● 学習の仕組みづくり

- ・ 学習をタスク化して毎日の生活に取り込む。

タスクの量は毎日無理なく継続できる量に調節する。

- ・ ロシア語話者と交流できる機会を見つけて飛び込む。

そこでうまく話せなくても、失敗や経験が学習のモチベーションになる。

● 学習方法の例

- ・ Youtubeの文法解説動画を見る。（Kensuke Utidaのチャンネルがオススメ）
- ・ AI（例：Gemini）に和文露訳や露文和訳の問題を作ってもらって解く
- ・ Youtubeのロシア人向け動画を使ってシャドーイングをする。

（速度変更や字幕表示で難易度を調節できる）

- ・ 辞書を読む。単語を覚えるのではなく例文を頭に入れる。

『パスポート露和辞典』は例文が分かりやすく、

1日1ページのペースで読めば約1年で読了できる。



訂正

機関紙6月第1588号「第71回日本ユーラシア協会愛知県連総会報告」の記事で、「ゴーゴリが言った『ウクライナ人の特技はおいしいものを沢山食べること』」のところを、「ゴーゴリの作中で描かれた場面のように『ウクライナ人の特技はおいしいものを沢山食べること』」に訂正いたします。